



宮沢賢治と学ぶ宇宙と地球の科学1 宇宙と天体

柴山元彦・編 西村昌能・著

創元社 A5判 176頁 定価 2,000円+税

読み物
お薦め度
5
☆☆☆☆☆

宮沢賢治の作品を読んだ、あるいは何らかの形で触れたことがある人はきっと多いだろう。「図書館で借りて読んだ」「国語の教科書で読んだ」「まんがや絵本で読んだ」などなど。

宮沢賢治は岩手の学校で地学の教員を勤め、農業指導者であり、そして、詩人でもあり、童話作家でもあった。その作品群には地学的な内容が多く、天文学宇宙に関係した記述も多い。

本書は、宮沢賢治作品の地学的な一節を引用して構成した、宇宙や地球を学べるシリーズ「宮沢賢治と学ぶ宇宙と地球の科学」の第1巻である。

さて、本書は一見、詩的でファンタスティックな装丁となっている。ぱらぱらめくってみると、各章の冒頭では、けんじ先生や、きつねくん、ねこさんらが登場し、何やら話をしている。そして、カラフルな写真や図版も豊富で、初見ではつい読みものの印象を与える。ところが、改めてしっかり読んでみると、かなり骨太な内容であることがわかる。これは一つに、著者らが元高校の教員ということもあり、高校地学の教科書レベルの内容が反映されていることや、最先端の天文学の話題も随所に交えていることが理由である。

各章の冒頭は、賢治作品の原文にはじまる。続いて、前述のけんじ先生たちが、原文の天文に関わる文章に対し話題提供を行っている。このやりとりは、続く天文学の解説部分のつなぎ役を果たしている。順に読み進めるのもいいし、逆に解説部分から読んで、賢治作品の原文に戻るのもいいだろう。そして、宮沢賢治自身が、この時代に天文学の多方面の知識

に精通していたことに改めて驚く。その理由として、水沢天文台を訪れて、天文学者らと交流していたことが考えられる。

本書は、「太陽系の天体」「太陽」「恒星」「銀河と銀河系」「宇宙」「天体の観測」「宇宙関連災害」と、以上の全7章から構成されている。

皆さんもよく知る『銀河鉄道の夜』は、「銀河と銀河系」「宇宙」の章に登場する。「銀河と銀河系」では、主人公のジョバンニが通う学校の授業が舞台。「もしもこの天の川がほんどうの川だと考えるなら、その一つ一つの小さな星はみんなその川のその砂や砂利の粒にあたるわけです」と、天の川の説明がなかなか秀逸。そして、天の川銀河に加えて、銀河回転曲線について複数の画像を使っての説明は印象深い。「宇宙」の章では、『銀河鉄道の夜』の第3次稿のブルカニロ博士が登場するシーンが引用。「さあ、切符をしっかりと持っておいて。(中略)天の川のなかでたった一つのほんどうのその切符を決しておまえはなくてはいけない」とジョバンニに人生を指し示す言葉をかける。

「宇宙関連災害」は、このシリーズならではの章と言え、宇宙天気予報、小惑星衝突、宇宙放射線、スペースデブリなどの話題を取り上げている。

本書にふれると、宮沢賢治のさまざまな作品が存在すること、そして、そこには星や宇宙に関連する記述が大変多いことを知ることができる。改めてこれらの作品を読んでみたくなるし、中高生にもぜひ読んでほしい。

矢治健太郎
(自然科学研究機構・核融合科学研究所)